

# 戦士

No.12

社会主義学生同盟  
西地方委員会機関誌

反帝斗争をアロレタ  
リア日本革命へ！

7.18.19 全学連大会に結集し、70年安保粉砕全学連  
地区反戦の隊列を強化せよ！

7.28.29 ASPAC 開催阻止中央斗争に決起し、日帝  
のアシマ侵略に対決せよ！

7.26 キューバ革命10周年記念集会 ↓ 8.3 国際反戦  
会議に結集し ↓ 8.5 国際反戦全関西集会を成功さ  
せよう！

① 7.18.19 全学連大会の結集は、日帝の政治的権威の  
崩壊への第一歩である。

② 7.26 キューバ革命10周年記念集会は、60年代の世  
界的動向の種々の動向を反映し、日帝及び国内市場から

日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

③ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

④ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

⑤ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

⑥ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

⑦ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

⑧ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

⑨ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

⑩ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

⑪ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

⑫ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

⑬ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

⑭ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

⑮ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

⑯ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

⑰ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

⑱ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

⑲ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

⑳ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

㉑ 7.28.29 ASPAC の開催阻止中央斗争は、日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

日帝の政治的権威の崩壊への第一歩である。

品名	1950	1965
米	53.8%	45.1%
石油	6.4	9.4
公債	4.3	4.5
株	11.6	8.2
金	1.6	5.7

＜世界経済年報＞

米資本主義の崩壊への第一歩である。

米資本主義の崩壊への第一歩である。



本線は、70年安保自動延長→沖縄奪還→自衛隊配備→  
No.3 マミアの力関係に対応し、日米安保の現在の関係の軌  
軌→独自の対マミア・対中口政策である。

⑥10・8以降→6・28までの口内階級関係の特徴は、  
東力斗争を軸とした70年安保斗争の前進の中で、反米  
口内平和人民戦線派と、東力斗争→口内派の分裂の進  
行と、前者内部の再編である。社会派は、日韓斗争の  
過程で、反米基地斗争による共産党の取場における伸  
長に対抗して、戦時的組合主義を保持した組合青年部  
を中心とした戦青年委員会を組織したが、地区反戦青年  
委員会を中心とする革命的政治斗争部隊の下からの育  
成に對して改進黨上意識→安保口内共斗を対置し、上  
部→組合における民社→同盟、EMF・J.C.、オ2組  
合の伸長の中で、組合に立脚した政治斗争を政治型大  
衆運動へ転換させ、沖縄奪還を軸に野党連合政府権組  
に對してハゲモニーを擡げようとしたが、合理化へ  
の敗北を承認し、口内派・交通関係（全電連等）が力  
を対する戦時的組合主義の放棄の中で、発展に對し  
る交渉と左からの分解が進行している。共産党は、反  
帝斗争の放棄は当然として反米基地斗争において、え  
んてん、党活動の遂行運動→改良主義への転換は、口  
内階級上において、又もソ連派に接近し、口内派も  
反帝東力斗争派・中共派からポイコット→水開きな  
り状態であり、選挙における共産党の伸長も社会党の  
浸透の一部分の吸収にすぎず、フランス選挙のノー  
ル派の敗北と共に民主連合政府→安保破壊相の破壊  
を遂行している。この路線は、労働者、市民の多数を獲  
得する為はこのグループの幻想→民主主義と平和を利  
用し、共産主義の原則の全面撤回である。従って日本  
帝口内派は当面、反米域内平和→沖縄奪還の政治運動  
を媒介として、口内派と密接し、マミア侵略、軍事  
力の飛躍的強化の中で70年代の帝口内派政治を準備す  
るだろう。

田小ロアロックの解体→口内共産主義運動の歴史的  
課題

⑦10・8以降→6・28年間ASA SDA C粉砕東力斗  
争（反内連→地区反戦）の過程は、70年安保→70年代  
階級斗争に向けて、革命的潮流が登場し、飛躍的に強

化されたが、それは権力に對してよりもむしろ小ロア  
ロックによって労働運動との大規模な結合に至らず、  
再度我々が、10・21口内反戦→佐ト訪米阻止→70年安  
保を斗争めくたの、政治、組織路線を明確にする必要  
に迫られていたことである。

この小ロアロックの解体は、口内革命において、  
ホルシエヴィキでさえ、ソビエト組織において「總て  
の小ブル的な口内見まの諸派派のブロックに對して  
微弱なる少数派であることを正直に認めてなければなら  
ない」事から出発し、一カ一七・四〇臨時政府打倒  
の道の中で、大衆の實踐によって小ブルアロックの輿  
体を瓦解させ、ソビエト内多数派を占める（一カ一七  
・九）事によって、口内を實現する。このソビエト内小  
ブルアロックの解体の環境は臨時政府の対外政策と小ブル  
ブロックの革命的祖回防衛主義に對して内戦の主義に  
対して対決したことである。（レーニン「三巻論議」の  
日の革命におけるその任務）

口内派における革命の敗北は、この小ブルアロック  
の「オロチ」的性格→域内平和を唱うかに對決す  
るのではなく、市民の解体戦術と戦時的組合主義（こ  
れは不可欠の要素である）に對してその限界を統一戦線  
政策と、労働者の多数を獲得する為には、その幻想→民  
主主義政府への期待を精査しようとして、小ブル  
アロックを解体するのはなく、逆に、ファシズムを  
生み出した。20年のギャップ後は、それを労働組合の  
ゼネストで粉砕したため、小ブルアロックの再度の登  
場と、その解体の条件が成熟したが、その域内平和主  
義に對して、内戦による口内派を破壊できず、再度  
口内派によって吸収された。23年の公開口内派のルー  
ル占領にともなう危

（追加に続く）

戦に対しては、域内平和が民族解放の第一歩と見做す事である。これは、地区に於ける共産主義の  
いっさいの祖國主義の夢に、KADU(熱帯産物) 自身が敗北し、蜂起は惨敗した。即ち二三年、パロ系  
の内は、ロシアンゴエトの必生主義に設定して、国防上の  
観点から被へるに値せぬ。二三年を通じて、赤軍は国防  
軍に準備を提供した。ドイツが敗北し、インフレと失業  
に對して、セネガルを対峙したが、KADUの民族解放  
主義は、在民の域内平和に對し、内戦の転化をもち  
オモの地なかつた。

④戦後世界に於ける産別家談の中心とする日本下の敗  
北は、戦後危機に對する産別家談の産後復興家談路線に  
規定されて来た。戦後危機は、自然発生的に工場ソビエ  
トが出現した。即ち、工場委員会と地方工場代表者家談  
と産別組織運動が起り、都市工場地帯では、工場生産  
管理し地域管理下に発展し、「当量の自然発生的発展」に  
於けるソビエト組織形態の発生が見られた。しかし、不  
断に、市民運動を大分組内反乱と結合させ、国家的  
放棄、インフレに對して、屋敷力をソビエトに集中し、内  
部への転化を追求する事がある。

資本主義的再生産過程を成す共産党に産別家談自身  
が産後復興家談を提せし、これは、内戦の斗争性の差  
はあつても、在民党に於ける復興家談と同一であ  
り、畢竟、四七年二月一日でセネガル敗北以降、前者  
は、後者より、少くも、取北は決定し、それ以  
降の人民管理と産後復興の斗争の中で、四九年夏の敗北  
に結果した。これは、戦後危機を内戦に国際主義で夫  
するのとは、産後復興は、域内平和の枠にこのため  
この結果である。(藤田光雄、民族解放運動の転換を  
工業三篇、産別家談の運動、日本評論社)

このダブルプロセスの條件の、国家的な再生産の  
その特徴が、域内平和の結合を成す事に對し  
て、内戦を又、内戦で、革命的に對する事が出来るか  
否かである。オエは、革命的に、地区に於ける地区に於ける  
る革新フュクロー、戦後復興工場党に産別家談が、運動の  
組織的組織的発展に對して、形成されてあり、  
二の労働運動と共産主義の結合の段階に對して、出来るか  
とつかない。

⑤現在の至極、在民党の任務は、オエは、革命的  
反戦主義の先駆的展開の中で、地区反戦青年運動と

⑤階級斗争の国際的環境と内戦反戦家談  
⑥小ブル的有A-A-L-A 運動の組織的論議  
の對世界の分断の教化は、地域主義へアラブ民族主義  
等)民族主義へ帝国主義に對するものではなく、先  
づ、増々、民族解放と在民主義の斗争に轉化せしめ  
民族及び外、外日帝日主の徹根が明確な目標となつて  
いる。

④階級斗争を成す事は、  
革命的及革命性として、増々明確である。ソ連は、有  
のインド系、地中系、中東系、中東系、中東系、中東系  
ら、アラブ諸国、イラン、トルキスタン、インドの所  
族などの組織に、武装を供給している。東欧の解体は、  
民族利害の要求より、ロシア資本主義との結合として  
進められ、ヨーロッパの民族斗争を結合し、内戦  
の組織に、NATOの米軍に、小ブル的階級に轉化して  
いる。労働者階級の任務は、かく、赤軍が、公認  
階級の反乱と結合して、又、アラブランドの階級と結合  
して、アラブランド斗争を争う。又、如く、世界革命の赤軍  
として、自己の軍隊を形成する事がある。  
これは、不断に祖國主義と帝国主義との衝突

